

## わたしの大切な価値観

(原文)

吉田 朋加 (14 歳)

東京都

晃華学園中学校高等学校

「価値観」は人それぞれ異なる。「価値観」は周りの環境、学校、友人の影響や、それまでの自分自身の経験によって少しずつ作り上げられていくものだと思う。なので、同じ両親に育てられても兄弟がみんな同じ価値観を持つとは限らない。

私の「価値観」の根幹となっているものは、やはり身近にいる家族だ。その中でも父の影響は大きい。父は、外科医として総合病院に勤務し、命に関わるような大きな手術をしている。父は私から見ると、家族より仕事=患者さんを優先していると感じるほど仕事に熱心だ。勤務日でない土日でも術後や入院中の患者さんのために病院へ行く。家にいる時でさえも手術のビデオを見たり手術本を読んだり、日々研鑽を積んでいる。そのような仕事へ取り組む真面目な父の姿を見て、患者さんへの「誠実さ」であったり、「思いやり」や「責任感」を持って行動することが、どういふことを学んできたように思う。

仕事ばかり優先しているように見えた私は、以前父になぜそこまで仕事をするかを聞いたことがあった。それに対し「患者さんを治すのが医者者の使命だからだよ」と父は言った。父もまた医師である祖父、曾祖父の後ろ姿を見ながら、その行動の元となる「思いやり」や「責任感」の価値観を得たに違いない。

また、私は三姉妹の次女として育ったこともあり、常に多くの考え方に触れてきた。自分の意思を主張する姉、同じく意思を主張するが困ると頼ってくる妹、三人の考え方がバラバラで度々喧嘩にもなった。そんな時に場を収めるのは私の役割だ。私は常に中立の立場で、まず相手の気持ちや話を聞いてから、相手がどんな言葉を言って欲しいかを考えて意見することが多くなった。これは、育つ中で出来上がった「調和」という価値観だ。この価値観のおかげで、小学校時代も現在も友達と良い関係が作れているように思う。

昨年の夏、国立市の高齢者施設でボランティアをした。コロナ禍であるため、対面でのボランティアが出来ず、自分が高齢者だったら何が嬉しいだろうと想像してみた。交流ができない分、目で見て喜んでいただけるものを作りたいと思い、施設に通われている方一人一人にお誕生日カードを制作して施設に届けることにした。高齢者の方々が読みやすい文字の大きさとメッセージを書き、カラフルなカードにケーキや花束を折り紙で折って貼り付けた。このカードを受け取って喜んでくれる顔を想像す

ることで自分の心にやる気が湧いてくるのを実感した。他人に喜んでもらいたいという想いは、いつの間にか自分自身の心まで満たしてくれていることに気づけた。この時私は、父の患者さんに対する気持ちを少しだけ理解できたように感じた。父のように命を救うほど大きなことは出来ていないが、身近なところで他人に喜んでいただけたという初めての感覚だった。私の中にある「思いやり」や「他人の喜びが自分を幸せにする」価値観に気づけた瞬間だった。

私は「優しさ」や「思いやり」が溢れる平和な世の中になって欲しいと思っている。テレビをつければコロナや戦争と、つい目を背けたくなるような悲惨な現状も映し出される。この時代に生かされる私たち一人ひとりには、未来を平和な社会にする責任や使命がある。つまり、私たち一人一人が「優しさ」と「思いやり」を持って行動が出来れば、その行動で笑顔が増え、思いやりの連鎖で必ず平和な社会ができると思う。そのような社会を作りたい。私には、まだ世界に目を向けるような大きな行動は出来ないが、ボランティアの時に感じた他人が笑顔になる行動を身近なところから続けていくことが、平和な社会に繋がると信じて身近な人を笑顔にすることを実践していきたい。これが私らしい生き方だと言えると思う。そしていずれは、私も父のようにたくさんの命を救える「優しさ」と「思いやり」に溢れる医者になりたいと思う。